

北方四島 の地図

択捉島 国後島 色丹島 歯舞群島



国後島メモ
最も多くの人々が住んでいた島。終戦までは泊村と留夜別村があり、7,364人が暮らしていました。

択捉島メモ
日本で一番大きな島。沖縄本島の2.6倍の面積で、鳥取県とほぼ同じ大きさ。留別・紗那・薬取の3村がありました。

色丹島メモ
入江と緑が美しい島。なだらかな丘陵と幾つもの深い入江がある。

歯舞群島メモ
群島は5つの主要島と貝殻島や春刈島などの小さな島々からなっています。5つの島は多楽島・志発島・水晶島・勇留島・秋勇留島です。

日本本土と北方領土はこんなに近い!

納沙布岬	3.7km	貝殻島
	7.0km	水晶島
	13.7km	秋勇留島
	16.6km	勇留島
野付半島	16.0km	国後島

北方四島の地名を覚えよう！

■北方四島は「日本の領土」

日本が北方の島々のことを知ったのは、江戸時代初期のことといわれています。これは松前藩の「新羅(しんら)の記録」によって明らかです。1644年(正保元年)江戸幕府は「正保御国絵図」を編さんするため、諸藩に「国絵図」の提出を命じましたが、このとき松前藩が幕府に提出した自藩領地の地図には、「クナシリ」、「エトホロ」など39の島々が書かれています。また、1721年(享保6年)ロシアの探検隊が作成した地図には、北方の島々が「オストロフ・アポンスキヤ」(日本の島々)と明記されています。1700年代の後半になると、幕府は、みずから北方の島々の経営に本格的に取り組むようになり国後島、択捉島を中心に最上徳内、近藤重蔵、高田屋嘉兵衛のような勇敢な日本人が活躍しました。このような歴史的事実と当時の実情を踏まえて、1855年(安政元年)平和的な話し合いの結果、日口間の初めての国境が決められたのです。

択捉島(エトロフトウ)

番号	地 名	呼 び 名	説 明
1	萌 消 湾	モエケシワン	択捉島最南端の湾。
2	内 保	ナ イ ボ	鮭漁の漁村。 内保湖には、マリモが生息している。
3	阿 登 佐 岳	アトサダケ	標高1,209m。アトサノボリとも呼ぶ。
4	留 別	ル ベ ヅ	毎年8月に行われる競馬大会は一大娯楽であった。
5	有 萌	ア リ モ イ	現在はルイバキと言われ、水産加工場がある。
6	紗 那	シ ャ ナ	現在は島で一番大きな集落。 クリル地区政府がある。
7	内 岡	ナ ヨ カ	「日本捕鯨」の事業所があった。
8	北 散 布 山 散 布 山	キタチリップヤマ チリップヤマ	標高1,561m。 標高1,582m。
9	別 飛	ベ ッ ト ブ	択捉に8つあったサケマス孵化場の「別飛事業所」があった。
10	薬 取	シ ベ ト ロ	択捉島にある3村の一つ。 現在はだれも住んでいない。
11	神 威 岳	カムイダケ	標高1,323m。島北東にある火山。
12	カモイワッカ岬		北緯45度33分日本最北端の地。1800年、「大日本恵登呂府」と書かれた標柱が建立された。
13	ラッキベツ岬		断崖絶壁から海へ落ちるラッキベツの滝は140mある。
14	茂 世 路	モ ヨ ロ	硫黄鉱山があり、採掘事業所があった。
15	年 萌	ト シ モ エ	36戸、180人が暮らしていた。
16	単 冠 湾	ヒトカップワン	昭和16年11月、日本海軍はここから出撃しハワイ真珠湾を攻撃した。
17	天 寧	テ ン ネ イ	南に突き出たウエンシリ岬が防波堤の役割をする良港。
18	具 谷	グ ヤ	8戸、37人が暮らしていた。
19	入 里 節	イリリブシ	海岸部にトドが群生。 その皮で馬具や靴を作った。

国後島(クナシリトウ)

番号	地 名	呼 び 名	説 明
20	泊	ト マ リ	役場があり四島で一番大きな集落。
21	善 平 古 丹	ゼンベコタン	島最西端にあり、神社があった。
22	古 丹 消	コタンケシ	巷で有名な温泉地。
23	秩 苅 別	チブカリベツ	近くに見事な材木岩がある。 住民は海藻を採っていた。
24	羅 臼 山	ラウスヤマ	古釜布近くの山。標高882m。
25	ニキシロ湖		水深4m、周囲8km。 道庁孵化事業所があった。
26	ル ル イ 岬		島最北端の岬。
27	爺 爺 岳	チャチャダケ	北方四島で最高峰の火山。 昭和48年大噴火。標高1,772m。
28	安渡移矢岬	アトイミサキ	島最東端の岬。灯台があった。
29	白 糠 泊	シラヌカトマリ	木工場があった。
30	礼 文 磯	レブンイソ	自然の港。小学校の校庭に奉安殿があり、天皇の写真が収められていた。
31	乳 呑 路	チノミノチ	留夜別村役場所在地。豊富な森林資源がある。
32	植 内	ウエンナイ	戦前は昆布で栄えた。 螢生息の北限といわれる。
33	蠟 燭 岩	ロウソクイワ	砂浜からそびえ立つ岩。 地元では、悪魔の指といわれている。
34	古 釜 布	フルカマップ	戦後津波の被害で集落を移した。 現在、四島訪問は古釜布沖で入出域手続をする。
35	瀬 石	セ セ キ	海岸に温泉が湧く。
36	東 沸	ト ウ フ ツ	近くの東沸湖にはワカサギが遡上。 日本人墓地も点在。
37	ケラムイ岬		国境警備隊の駐屯地がある。

色丹島(シコタントウ)

番号	地 名	呼 び 名	説 明
38	ホ ロ ベ ヅ		ここを流れるホロベツ川は、穴潤湾に注ぐ。
39	穴 潤	ア ナ マ	色丹島のビザなし訪問団は、ここの港から上陸する。 日本の人道支援で設置した発電所がある。
40	斜 古 丹	シャコタン	捕鯨が盛んで、漁港として栄えた。 北方水域への中継港。
41	エイトンノ外崎		ロシアでは「世界の果ての岬」と呼ばれている。
42	チ ボ イ		沖にある小島は、エトピリカやウミスズメの繁殖地。
43	ト イ ロ		4戸、22人が暮らしていた。
44	イネモシリ		太平洋側にある美しい海岸。 近くに日本人墓地がある。

Japan's Northern Territories

色丹島(シコタントウ)

番号	地 名	呼 び 名	説 明
45	松 ケ 浜 湾	マツガハマワン	有名な景勝地である。
46	キリトウシ		目前に小島があり、断崖絶壁のところ。
47	ノ ト ロ		特別教授所(小学校の前身)があった。 北東には、ノトロ山がある。

歯舞群島(ハボマイグントウ)

番号	地 名	呼 び 名	説 明
48	志 発 島	シボツトウ	昆布を拾うだけで生計が成り立つほど、ホタテ採取に潜水器具を使うのは、この島だけだった。
49	水 晶 島	スイショウトウ	海藻の採取が最大の収入源。納沙布岬から7kmの位置にある。200余頭の作業用馬が放牧されていた。
50	多 楽 島	タラクトウ	小規模の漁業が中心。主産業は昆布採取で、季節労働者が大勢入った。
51	勇 留 島	ユ リ ト ウ	沖合漁業が盛んで、サメの好漁場だった。缶詰工場があり、各地からの出稼ぎ者が多かった。
52	秋 勇 留 島	アキユリトウ	海藻の宝庫。島全体が笹に覆われ、樹木が1本もない。88人が暮らしていた。
53	貝 殻 島	カイガラジマ	納沙布岬から3.7km。昭和12年4月、灯台が建設された。 昭和38年以降、協定による安全操業での昆布漁が続いている。
54	萌 茂 尻 島	モエモシリトウ	歯舞群島では、一番小さい島です。
55	相泊崎(志)	アイドマリサキ	港は水面に現れない瀬が8kmほど張り出し、シケでも安全だった。
56	西浦泊(志)	ニシウラトマリ	全長5km、幅7mの道路があった。
57	トッカリ崎(志)		その名の通り、トドがたくさんいた。
58	税庫前(勇)	ゼイコマエ	トドやアザラシの生息地として知られている。

北方四島の生き物たち

ヒグマ、アザラシ、オットセイ、トドをはじめ、エトピリカやオジロワシなどのめずらしい鳥類や動物が生息しています。



クマ



クジラ

ラッコ

オジロワシ

アザラシ

トド

エトピリカ